

平成 21 年 6 月 4 日現在

研究種目： 若手研究（スタートアップ）

研究期間： 2007～2008

課題番号： 19820023

研究課題名（和文） 英国初期刊本(1473 -1600)の本邦所在調査

研究課題名（英文） Early English Books(1473 -1600) in Japanese Libraries

研究代表者

徳永 聡子 (TOKUNAGA SATOKO)

慶應義塾大学・文学部・助教

研究者番号：60453536

研究成果の概要：

本研究では、日本国内の大学ならびに研究機関の図書館が所蔵する英国初期刊本(1473-1600)に関して、所蔵情報の収集と書誌学的調査を行った。この結果、国内には220点以上もの英国初期刊本が所蔵されていることが、初めて明らかとなった。また各蔵書について実際に調査を行い、書物の著者名、タイトル、出版情報、さらには各コピーに特徴的な製本、書き込み、来歴の有無などの情報を記録し、本邦所在の英国初期刊本目録制作の基盤を整備した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	960,000	0	960,000
2008年度	990,000	297,000	1,287,000
総計	1,950,000	297,000	2,247,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：ヨーロッパ語系文学

キーワード：英米文学、書誌学、初期印刷本、蔵書目録、ESTC

## 1. 研究開始当初の背景

20世紀後半に、フランスのアナール派が提唱した書物史の分野が発展すると、文学作品研究においても、作品の成立過程だけでなく、書物という物理的コンテキスト、作品受容の文化的・社会コンテキストまで織り込んだ解釈が求められるようになった。こうした研究動向を踏まえて、近年、中世英文学の分野においても、作品が写本から印刷本へどのように継承され、読まれてきたのか、テキストの受容や伝播の問題について、書物の物質的側面や書き込みなどから探る研究が盛んとなっている。

書物を中心とする研究には一次資料の所在の把握が必須であるが、各図書館が刊行する蔵書目録、オンライン・カタログ、またイギリスで出版された初期印刷本の場合、通称STCと称される書誌目録 (*A Short Title Catalogue of Books Printed in England, Scotland, and Ireland, and of English Book Printed abroad 1475-1640*, 2nd edn, London, 1976-1991) などが、基本文献として使われている。さらにデジタル化の発展とともに、各図書館の貴重書の所蔵情報の開示は国際的なレベルで急速に進みつつある。例えば大英図書館が、STCなどの情報を統合する形で2007年に公開を開始した English

Short Title Catalogue (ESTC <[http://estc.bl.uk/F/?func=file&file\\_name=login-bl-list](http://estc.bl.uk/F/?func=file&file_name=login-bl-list)>) は、1473 年から 1800 年までにイギリス市場向けに印刷された書物を対象としたオンラインデータベースで、書誌情報だけでなく各国の図書館の所蔵情報をも提供する。

この ESTC の所蔵館情報は、既刊の蔵書目録や図書館からの報告をもとに更新が行われている。しかしながら ESTC には日本の図書館の所蔵情報はほとんど登録されていない。高度経済成長期の 1970～80 年代には、国内の大学図書館、研究機関は歴史的価値の高い洋書稀覯書を数多く収蔵したにも関わらず、その内容を専門的にかつ体系的に調べ、開示する研究は、15 世紀刊本と中世フランス写本を対象としたもの以外には、これまでほとんど取り組まれてこなかった。このためイギリス関連の貴重書に関しても、どのような本が何処にどれだけあるのかが分からない状態であり、日本においても可能である英国初期刊本の調査を遂行するのが、きわめて困難な状況にあった。

以上のような状況を受けて、筆者は国内所在の英国初期刊本の調査を実施し、その研究環境の整備をすることに意義を感じ、本研究を開始した次第である。

## 2. 研究の目的

日本国内の諸大学・研究機関の図書館には、数多くの和漢洋の貴重書が所蔵されている。こうした貴重書の書誌学的な調査と整備には高度の専門的な知識を要するが、日本の図書館では西洋書誌学の専門家の養成が立ち後れている。このため欧米の図書館に比べると、国内にある洋書貴重書は整備が進んでおらず、所蔵情報も公開されていないことが少なくない。

このような現状を打開するために、本研究では、日本国内における英国初期印刷本の所在調査と各書物の書誌学的記述を行い、中世イギリス文学と書物史における一次資料研究の環境整備を目的とする。

調査対象は、イギリスに印刷術が導入された 1470 年代前半から 16 世紀末までの間に、イギリス国内で出版された印刷本、ならびにイギリス国外でイギリスの市場向けに出版された英語作品である。

これらの資料を所蔵する図書館の所蔵調査を行い、さらに現地に実際に赴き、蔵書内容について書誌学的な情報を調査し、論文や目録の形で発表することで、日本にある一次

資料に関する情報の公開と刊本研究の発展の促進を目指す。

## 3. 研究の方法

本課題研究では、日本国内の図書館が所蔵するイギリス関連の初期刊本の所在調査を行った。この調査をより効果的に遂行するために、次のような手順を踏んだ。

- (1) 国内の大学図書館や研究機関の蔵書内容に関する情報収集を行う。具体的には、既刊の蔵書・書誌目録、貴重書展の目録、各図書館のホームページや OPAC 等を調べ、英国初期刊本を所蔵する図書館の簡易リストを作成した。また所蔵の見込まれる図書館等に、所蔵について問い合わせた。これにより貴重書の有無についての情報だけでなく、関連資料などの提供を受けることも多々あった。
- (2) (1)で所在の確認ができたものに関して、原物調査を行う前に、英国刊本書誌の国際標準である ESTC などの専門的な書誌目録で内容を調べたり、英国初期刊本の複製画像 (Early English Books Online 提供) などを利用して版の調査のための資料を整えた。
- (3) 調査の準備が整った段階で、資料を所蔵する図書館に閲覧の予約を取った。国会国立図書館や国立大学などは個人が直接図書館に閲覧を申し込むことができるが、多くの場合は所属図書館を通しての申請が必要である。そうしたやり取りには時間を要するため、図書館訪問を計画的に進める必要があった。実際の調査では、ESTC の記述に基づき、各書物の著者名、内容、出版情報など基本的な書誌情報を調べ、版の同定を行った。さらに製本や書き込みなど、各コピーに固有の特徴を記録していった。
- (4) 原物の調査後、調査内容を整理し、疑問点や再調査の必要な箇所を確認した。これに基づき、必要に応じて再調査を行った。また対象資料に関する研究論文などの 2 次資料を集め、資料に関する理解を深めた。なお調査の結果は、ファイルメーカーを使ってまとめ、目録制作の下準備を行った。
- (5) 研究対象の特性から、国内の資料だけでは十分に対応できないこともあった。その場合は、長期休暇を利用してロンドンを中心とした海外図書館での調査も行った。またイギリスの大英図書館やアメリカのハンティントン図書館など、この分野で権威のある欧米の図書館の貴重書室担当者とも連絡を密に取り、情報提供や本研究へのフィードバックを受け

- るようにした。
- (6) 書誌情報等が正確に得られた蔵書に関して、論文執筆を行い成果発表に努めた。

#### 4. 研究成果

##### (1) 研究成果とその意義

上述の研究の背景や目的でも述べたように、日本国内の図書館が所蔵する英国初期刊本の所在情報について体系的にまとめたものは存在しない。このため、まずこの情報収集が本研究の基盤となる重要なものであった。研究を始めた段階では、国内の所蔵数は100点余程度であるという推測的情報を関係者から得ていた。しかしながら、上述のようにさまざまな手段を用いてこの予備調査を進めていったところ、現時点では少なくとも220点が国内の図書館に所蔵されていることが分かってきた。これまで日本にどれだけの数の初期英国刊本が日本国内に所蔵されているのかさえまったく知られていなかったことを考えると、本研究によってその規模や全体像が初めて明らかになったと言える。

これらの国内所蔵本の内、本研究期間内において実際に所蔵本を調べたのは、以下の図書館である。(カッコ内は調査したコピー数を示す。)

##### 2007年度:

慶應義塾図書館(45点)、神戸学院大学有瀬図書館(1点)、関西学院大学図書館(5点)、関西大学図書館(2点)、同志社大学文学部(2点)、京都大学附属図書館(1点)、京都大学経済学部図書室(2点)、京都産業大学図書館(2点)、京都外国語大学附属図書館(7点)、国際日本文化研究センター(2点)。

##### 2008年度:

日本福祉大学附属図書館(1点)、広島経済大学図書館(6点)、成城大学図書館(4点)、明治大学図書館(1点)、筑波大学附属図書館(5点)、上越教育大学附属図書館(1点)、東北学院大学図書館(6点)、九州大学附属図書館(2点)、東京大学附属図書館(28点)。

こうした調査内容に基づき、筆者の所属する研究機関所蔵本については目録一覧を論文の形で公表している。さらに、所属機関の図書館の所蔵本を用いて貴重書展示会を開催し、研究者のみならず、西洋貴重書と馴染みのない学生や一般の人にも、その魅力を伝えるべく努めた。ここで展示した書物については詳しい解説を用意し、後日それを紀要論文としてまとめた。

##### (2) 今後の展望

全国には700以上の大学図書館がある(上

田修一「大学図書館 OPAC の動向」  
<<http://www.slis.keio.ac.jp/~ueda/libwww/libwwwstat.html>>。また本研究期間では対象から外した個人蔵書にも、英国初期刊本が少なからずあると思われる。このため日本国内にあるコピーをすべて網羅するような調査は現実的にはきわめて難しい。しかし今回初めて行った所在調査により、英国初期刊本調査の基盤は確立されたと言えるであろう。

本研究によって得られた重要な成果として、書物研究を介した人的交流についても言及したい。貴重書の調査には、対象とする資料の文学、言語、社会的背景、書誌学や目録作成の基礎知識といった専門性だけでなく、訪問図書館側の調査への理解、情報提供者、調査協力者の存在などがきわめて重要となってくる。本研究を遂行するにあたり、所属大学の図書館はもとより、他大学の図書館員、研究者、古書店関係者から、様々な形で支援を受けた。また海外では大英図書館の初期刊本部長、ESTC 担当者、またアメリカのハンティントン図書館スタッフとも学術的交流や親交を深めるきっかけとなった。今後はこのネットワークを生かして、日本国内における西洋貴重書研究の国際的レベルでの発展を目指すべく、引き続き英国初期刊本を中心とした国内の所在調査研究を進めていきたい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

##### [雑誌論文](計3件)

徳永聡子、「日吉メディアセンター所蔵の西洋初期刊本—HRP 2008 貴重書展解題再録—」、『慶應義塾大学日吉紀要 英語英米文学』54 (2009)、59-80、査読無し

Satoko TOKUNAGA, 'Early English Books (c. 1473-1600) in the Keio University Library', *Gebun-Kenkyu*, 95 (2008), 8-17, 査読無し

徳永聡子、「慶應義塾とインキュナブラ 収集、整備、公開へ」、『慶應義塾大学日吉紀要 英語英米文学』51 (2008)、59-81、査読無し

##### [学会発表](計1件)

Satoko TOKUNAGA, 'Walter Hylton in Early English Print Culture', at the 3rd International Conference for the International Anchoritic Society, held at Hiroshima Shudo University, 17

September 2008

〔図書〕(計 1 件)

Satoko TOKUNAGA, 'A Textual Analysis of the Overlooked Tales in de Worde's *Canterbury Tales*, in *Scribes, Printers, and the Accidentals of Their Texts*, ed. by Jacob Thaisen and Hanna Rutkowska, *Studies in English Medieval Language and Literature*, vol. [unknown] (Frankfurt: Peter Lang Verlag, 2009)  
[印刷中]

〔その他〕

徳永聡子(企画)「HRP 2008 西洋初期印刷本の世界—日吉メディアセンター所蔵貴重書展—」, 2008年11月14日~15日、慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎2階B会場(貴重書展示会)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

徳永 聡子 (TOKUNAGA SATOKO)  
慶應義塾大学・文学部・助教  
研究者番号：60453536

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者